

## 8. 短報

### 1. 訂正

外邦図研究ニューズレター6号(2009年)84-87頁の、山近久美子・渡辺理絵「アメリカ議会図書館蔵の日本軍将校による1880年代の外邦測量原図」(『日本国際地図学会平成20年度定期大会発表論文・資料集』2008年、10-13頁の転載)および同101-102頁の小林茂・渡辺理絵・山近久美子「初期外邦図の作製過程と特色」(『2008年人文地理学会大会研究発表要旨』2008年、42-43頁の転載)における村上勝彦氏の解説論文(陸軍参謀本部編『朝鮮地史略1』龍溪書舎、3-41頁)について、刊行時期の記載が誤っていた。同解説論文の刊行時期は1994年ではなく、1981年である。前者の86頁右段、後者102頁右段の文献目録の刊行年次を1981年とするとともに、前者84頁右段中央部2カ所および後者10頁左段最下行・右段11行目の「村上(1994)」を「村上(1981)」と訂正する。この訂正は、両要旨の原本(『日本国際地図学会平成20年度定期大会発表論文・資料集』10-13頁および『2008年人文地理学会大会研究発表要旨』42-43頁)についても同様である。なお、この誤りを指摘して下さった、村上勝彦氏(東京経済大学)に感謝したい。

### 2. 田中宏巳氏の『マッカーサーと戦った日本軍：ニューギニア戦の記録』(ゆまに書房、口絵+649頁、2009年8月)の刊行

外邦図研究に軍事史の専門家として参加していただいている田中宏巳氏(元防衛大学)の文献調査、現地調査(日本・ニューギニア・オーストラリアの当時の関係者へのインタビューをふくむ)にもとづく著作である。日本の関与した第二次世界大戦における、ニューギニア戦の意義を示すもので、日本軍が十分な地理的情報をもたずに、この地域での作戦が開始したことなど、この地域に関する外邦図の作製過程を考えるに際して、参考になる点が少なくない。



田中宏巳氏の著作表紙

### 3. 牛越国昭(李国昭)氏の『対外軍用秘密地図のための潜入盗測〔第1編〕：外邦測量・村上手帳の研究』(同時代社、xvi+432+X頁、2009年10月)の刊行

第5回外邦図研究会(2004年6月、お茶の水女子大)や日本地理学会のシンポジウム「外邦図の基礎的研究」(2004年9月、広島大学)で発表していただいた牛越氏は、中国大陸やシベリアで外邦測量にあたった村上千代吉(1879-1938年)の残した手帳の研究をすすめてきた。この成果は全3冊の書物として刊行される予定で、その第1編が「『外邦図』はどのように作られたか」という副題でこのほど刊行された。刊行にあたって、その費用の募金がおこなわれた。一般書を期待していたが、注や参考文献のついた学術書風のスタイルをとっている点は注目される。冒頭に外邦図関係の図を、末尾に年表を配置している。あつかう時期は、ところどころで前後するが、明治初期から日露戦争後である。外邦図研究会やそのメンバーの成果や提供資料に関する言及も見られる。以下、その構成を示す。

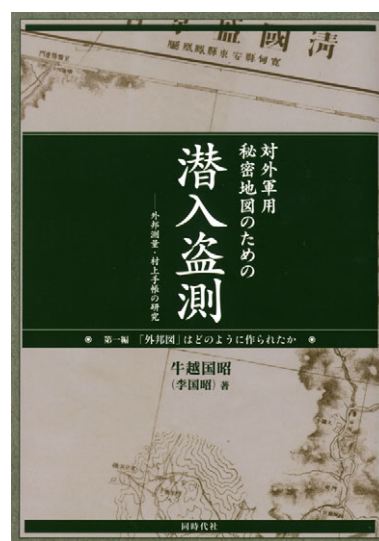
はしがき  
資料・史料について

凡例

第一編 「外邦図」とはどのように作られたか  
五万分一図への想い(はじめに)

- 第一章 日本の近現代地図政策の特質
- (一) 明治国家の形成と軍用地図
  - (二) 軍用地図政策の確立
  - (三) 「外邦図」・外邦測量時代への突入
- 第二章 参謀本部将校派遣制度と朝鮮・中国の軍用地図
- (一) 承前
  - (二) 中国での偵察・諜報活動の始まりから台湾侵攻前後
  - (三) 外征軍隊の構築と参謀情報将校派遣制度の確立
  - (四) 清国将校派遣制度の改訂と「隣邦地図編製条規制定の儀」
  - (五) 朝鮮での参謀情報将校の活動
  - (六) 隣邦二〇万分一図の完成から外征戦争へ
- 第三章 「外邦図」—侵略戦争のための対外軍用秘密地図
- (一) 「外邦図」とは何か
  - (二) 「外邦図」作製の本格化と列強国の東アジア測量・地図作製
  - (三) 「外邦図」断章—対外軍用地図の秘密解除
- 第四章 臨時測図部創設の意義—外邦測量の本格展開
- (一) 外邦測量について
  - (二) 戦時測量班について
  - (三) 臨時測図部創設とその意義
- 第五章 甲午日中戦争時臨時測図部による測図活動
- (一) 第一次臨時測図部の活動
  - (二) 第二次臨時測図部の活動 (1)
  - (三) 第二次臨時測図部の活動 (2)
  - (四) 威海衛占領下の測図
- 第六章 甲午日中・日露戦間期の秘密測量
- (一) 甲午日中戦争直後の秘密測量
  - (二) 義和団義拳鎮圧戦争と対中国測量
  - (三) 日露開戦直前の秘密測量
- 第七章 日露戦争と臨時測図部の活動
- (一) 臨時測図部の編成と第一次派遣
  - (二) 測図手の召募による地形三個班の増派
  - (三) 臨時測図部活動の成果と評価
- 第八章 臨時測図部の一九〇七年新編成
- (一) 日露戦後と軍用地図の渴望

- (二) 〇七年臨時測図部新編成の意義
- 第九章 〇七年体制の破綻と完全な潜入秘密測量体制への移行
- (一) 一九〇七年から一二年までの外邦測量の概要
  - (二) 本格的な潜入盗測 単独秘密測量体制への移行
  - (三) 「外邦図」の評価について
- 第一編のまとめ  
年表



牛越国昭氏の著作表紙

#### 4. 松岡資明氏の『日本の公文書：開かれたアーカイブズが社会システムを支える』（ポット出版、194頁、2010年1月）の刊行

日本経済新聞文化部の松岡資明氏は、たびたび外邦図研究会を取材され、これに関する記事も執筆されている。その松岡氏の大きな関心を示すのが本書で、公文書がその主題となっている。日本における公文書の保存や公開、デジタル化などの現状と問題点が検討され、その中に外邦図が位置づけられている。外邦図および外邦図デジタルアーカイブは「知られざる“負の遺産”」というタイトルで72頁から81頁にかけて図もまじえて紹介されるが、私たちにとって注目されるのは、外邦図に類似する資料の現状である。これを検討することによって、今後の外邦図研究と外邦図デジタルアーカイブの整備のあり方について大きな示唆が得られると考えられる。以

下、その構成を示す。

はじめに

I 公文書管理法はなぜ、必要なのか

公文書管理法は何のための法律か

「公文書」は国民共有の知的資源

情報公開とアーカイブズ

日本の現実

杜撰な文書管理は日本の伝統か？

II 公文書管理法の成り立ち

公文書管理法成立へ

公文書管理法

公文書管理法の課題

III 深くて広いアーカイブズの海

深くて広いアーカイブズの海

知られざる“負の遺産”

記録は時代の証人—1 市川房枝

記録は時代の証人—2 満鉄・藤原豊四郎

記録は時代の証人—3 横浜正金銀行資料

記録資料は力

IV デジタル化の功罪

研究資源共有化システム

SMART-GS

デジタル化と MLA 連携

デジタル・ジレンマ

V 記録資料を残す意味

新潟・中越地震ボランティア

熊本県・宇城市アーカイブズ

公文書以外のアーカイブズ・建築、音楽、漫画

公文書以外のアーカイブズ・公害裁判、学徒出陣、

労働資料

VI 記録資料を残すには

デジタル時代のアーキビスト

あとがき

巻末資料

日本の公文書館一覧

参考 URL 一覧



松岡資明氏の著作表紙

5. ウェブページ「外邦図研究プロジェクト」を公開中

「外邦図研究プロジェクト」のウェブページを公開しています。これまで刊行した『外邦図研究ニューズレター』1～6号、および、『終戦前後の参謀本部と陸地測量部—渡辺正氏所蔵資料集—』の全文、ならびに、大阪大学が所蔵する外邦図の目録を PDF ファイルでご覧いただけます。ウェブページの URL は以下の通りです。

<http://www.let.osaka-u.ac.jp/geography/gaihhouzu/>